

リーディングDXスクール事業【AIパイロット校】

北海道帯広柏葉高等学校（北海道）【指定校】

※使用した生成AIモデル

: ChatGPT、Gemini、Co-pilot、NotebookLM等

<校務利用> ①・③ 業務の効率化に向けたプログラムの作成や授業の構想

生成AIの校務利用では、アンケート等のデータ集計・分析を行っているほか、業務の効率化に向けたプログラムの作成や教員が作成した授業案の分析等において、生成AIを専門家あるいは多様な他者の1人として活用している。

Action① プログラムの作成に活用 ~専門家として~

ICTを活用した業務の一層の効率化に向けて、生成AIと対話しながら作成したGoogle Apps Script (以下、GWS) により、次の3つの自動処理プログラムを作成した。

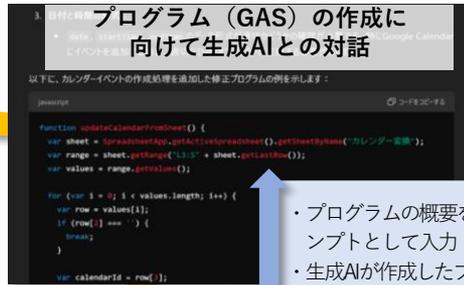
〔作成した自動処理プログラム〕

- 時間割反映アプリ (下図参照)
教務部が作成した時間割を各教諭の個人Googleカレンダーに自動登録
- 修学旅行の外出確認システム
生徒個々に二次元コードを配付し、生徒の出入りを一元管理
- 学習記録アプリ
未入力者に入力を促す電子メールを自動で送信

(時間割反映アプリ作成過程)

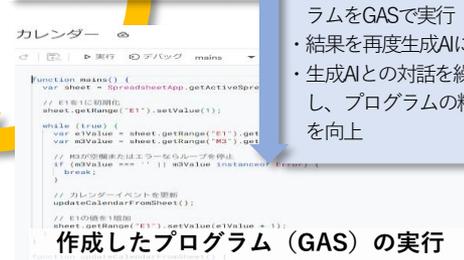
令和6年度 学校全体の時間割 葉高等学校

学年	国語					地理・公民					
	1B	1E	2A	2B	3F	1A	1B	2A	2C	3E	3A
1	国語	国語	国語	国語	国語	地理	地理	地理	地理	公民	公民
2	国語	国語	国語	国語	国語	地理	地理	地理	地理	公民	公民
3	国語	国語	国語	国語	国語	地理	地理	地理	地理	公民	公民



- ・プログラムの概要をプロンプトとして入力
- ・生成AIが作成したプログラムをGASで実行
- ・結果を再度生成AIに入力
- ・生成AIとの対話を繰り返し、プログラムの精度を向上

個人のGoogleカレンダーに登録



Action② 授業構想の分析に活用 ~多様な他者として~

資質・能力の育成につながる授業改善を図るため、生成AIと対話しながら授業構想を行った。

〔授業実施までの流れ〕

- ① 事前に生成AIへ学習指導要領を読み込ませる
- ② 生成AIに、作成した授業案を分析させる
- ③ 生成AIと対話を繰り返し、内容のブラッシュアップを図る
- ④ 生成AIの出力を参考に、授業案を決定する
- ⑤ 授業を実施する

今後の方向性等

- 生成AIを活用して現行システムを最適化したことにより、一部業務の効率化及び時間の短縮化を図ることができたことから、今後は、各分掌等のニーズを踏まえ、業務の見直し・改善を図っていく。
- 授業構想段階で生成AIを活用したことにより、指導方法等に係る新たな気づきが生まれたことから、今後は、授業の結果や改善の方向性等について生成AIと対話し、教育課程の評価・改善に生かしていく。